

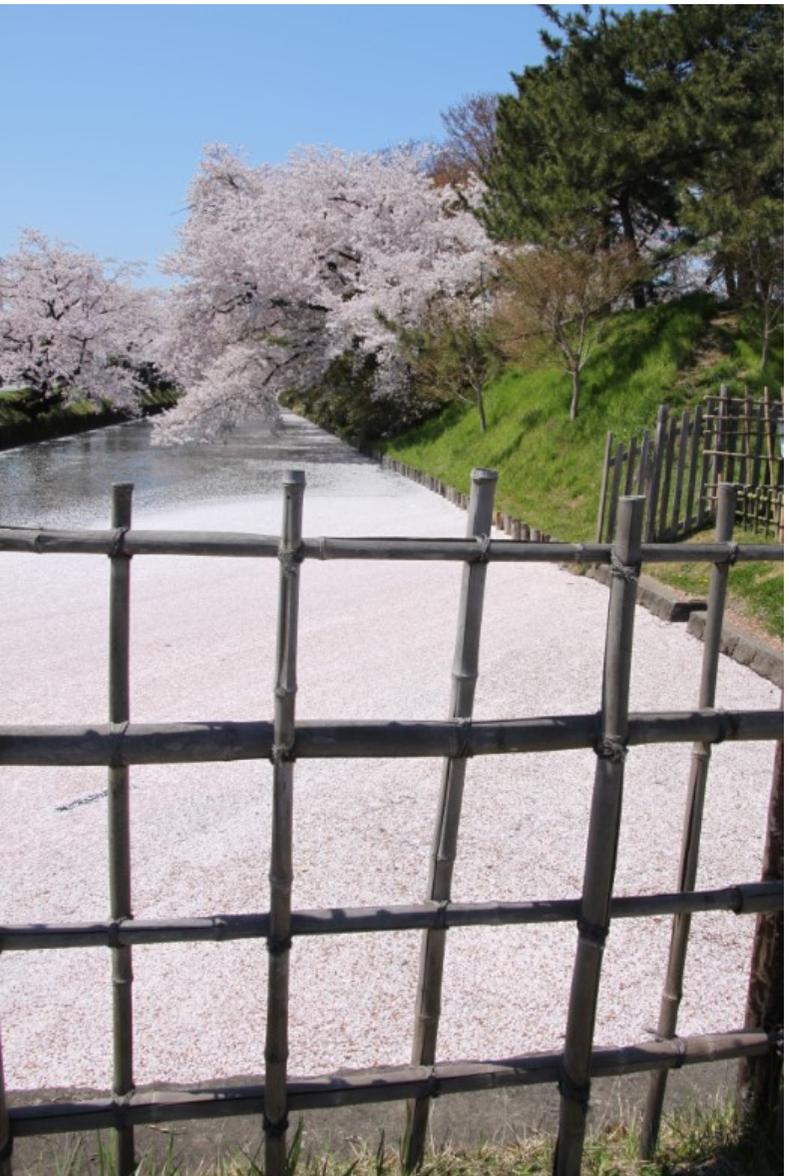
ひろさき

弘前の堀は夜桜 先きし日に

優しき君も 今は若葉か

令和三年四月二十二日

大中臣正比呂



どうせ聞くなら訊知りの御仁ではなく、美しい女性に、だろう。
日が落ちて方向を失い、旅先の弘前城跡の近くで周りを見渡すと、
高校生になりたての女の子が横断歩道で信号待ちをしていた。
塾でも行こうと云うのか、自転車を押している。

道を聞くと、色々親切に教えてくれたのだが、
私が何処へ行きたかったのか、今では忘れてしまったが、
その高校生は美人であったことだけは今でも覚えている。
今日、再び弘前を訪ねたが、あれから三年、
彼女も新しい道を歩いていることだろう。